











議 長	副議長	事務局長	次 長	係 長	係 員
					    

令和元年12月2日

三沢市議会

議長 舩見 亮悦 殿

三沢市議会

議員 春日洋子 

旅 行 の 復 命 に つ い て

先に旅行した結果について、下記のとおり復命致します。

記

1. 期間

令和元年11月6日（水）から
令和元年11月8日（金）まで

2. 用務先

鹿児島県霧島市

3. 第81回全国都市問題会議

「防災とコミュニティ」について

4. 概要

別紙のとおり

【概要】

少子高齢化が進んでいく中で、自助・共助・公助の機能をいかに組み合わせていくか、今回の会議では、防災に関する行政の施策及び自治会等をはじめとする地域のコミュニティ組織の取り組みについて、霧島市における事例や、広島市長、学識経験者の皆様の経験や、研究成果に基づいた講演と報告、そしてパネルディスカッションを通じて、「防災とコミュニティ」について学びました。

第1日目 11月7日(木)

【基調講演】 志学館大学人間関係学部教授 原口泉氏

「鹿児島県の歴史から学ぶ防災の知恵」

○南九州では少なくとも前近代においては、災害が起きることを前提として社会が築かれたと考えられる。私たちも、「災害は身近なところで起こりうる可能性が」あるという認識を持って、防災対策を考えるべきではないか。

【主報告】 鹿児島県霧島市長 中重真一氏

「霧島市の防災の取り組み」～火災防災～

○行政においては、地域、住民の取り組みへの支援はもとより、地域社会を中心としたコミュニティの防災への取り組みの推進に努め、いつでも起こりうる災害に機能を発揮できるコミュニティの構築と災害に強いまちづくりを目指してまいりたい。

【一般報告】 尚桐学院大学人文社会学群長 田中重好氏

「災害とコミュニティ：地域から地域防災力強化への答えを出すために」

○どうしたら地域防災力が向上していくかの答えは、従来のように政府に頼るのではなく、「それぞれの自治体が答えを出していかなければならない」課題である。
全国の自治体が地域防災力への取り組みを全国の自治体の共同の経験にしていくことで「地域からの答え」が生まれてくる。

【一般報告】 広島県広島市長 松井一寛氏

「平成30年7月豪雨災害における 広島市の対応と取り組みについて」

○地域の防災リーダーの養成を引き続き行うことに加え、地域コミュニティにおいて、住民が災害の危険性を我がこととして認識できるような取り組みを支援することで、地域の防災力の向上を図っていきたい。

【一般報告】 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 火山研究推進センター長 中田節也氏

「火山災害と防災」

○地域を自然災害から守り持続的に発展するために、地域の構成員全員が関わって作りあげるジオパークのような仕組みを活用することによって、長続きする火山防災への取り組みが可能になるだろう。

第2日目 11月8日(金)

【パネルディスカッション】

《コーディネーター》

追手門学院大学地域創造学部地域創造学科長・教授 田中正人氏

《パネリスト》

専修大学人間科学部教授 大矢根 淳氏

香川大学地域強靱化研究センター特命准教授 磯打千雅子氏

霧島市国分野口地区自治公民館長 持留憲治氏

静岡県三島市長 豊岡武士氏

和歌山県海南市長 神出政巳氏

○静岡県三島市では、高齢化の進行に伴い、防災活動の担い手を確保することが難しくなっていることから、小中学生が地域の防災訓練委積極的に参加するよう呼びかけています。

小中学生育成の取り組みは、各地域においても広がりを見せており、200 を超える世帯数を有するマンションでは、情報収集や避難支援を行う小中学生によるジュニアレスキュー隊を結成しました。

また、こどもからお年寄りまで幅広い世代が参加する地域の運動会でも防災に関する競技を実施し、多くの地域住民が触れ合える機会を作っています。

○和歌山県海南市では、行政の災害対策について説明会を開催し、災害に対して地区にどのようなリスクがあるのか、過去にどのような災害が発生したのか、行政はどのような対策を実施しているのか、そして、大規模災害における行政の限界や、地域で取り組んでいただきたい要支援者対策等、防災活動全般についてミニ説明会を開催しています。

以上